

集会案内

日曜日

礼拝：2:00pm-2:45pm

教会住所

c/o Grace Hills Church
24521 Moulton Pkwy
Aliso Viejo, CA 92637
中庭の小さいチャペル

地図



ホームページ

www.irvinenihongokyokai.org

榊原宣行牧師

電話(714)827-6244

Eメール: nobu@occc.org

杉村宰牧師

電話 (714)527-1456

Eメール:sugimura1950@gmail.com

◎『石叫』◆

「教会と国家」①

今回は日本ホーリネス教団の機関紙『リバイバル』(二〇二二年八月号)からの引用である。著者は「福音による和解委員会」の根田祥一氏である。主題は「ウクライナでの戦争から考える」『教会と国家』で、現在、キリスト教会を揺るがす出来事がロシアで起っているが、そこに一石を投ずる内容である。実のところ、僕はこのコメントで大いに安堵した。ロシア国内で正教会以外のクリスチャンがどのような活動をしているのかが不明だったからである。

◆これは宗教戦争なのか？

ロシアもウクライナも正教会(東方教会)が多数派であり、NATOに加盟する欧米諸国の多くも、カトリックやプロテスタント(西方教会)のいわゆるキリスト教国と言われます。クリスチャンどうしがなぜ殺し合うのかと、疑問視する声が聞かれます。

正教会の復活祭が祝われた四月二十四日、プーチン大統領はロシア正教会で、ゼレンスキー大統領はウクライナ正教会でミサに出席しました。二人が同じ神に祈りをささげたこの日も、戦闘は続いていました。また、ウクライナを「ロシア化」しようとするプーチン氏の目論みをロシア正教会のモスクワ総主教キリル一世が正当化し、ロシア正教の傘下にあったウクライナ正教会が、ロシアの侵攻後にモスクワ総主教庁から独立を宣言したことなどから、「宗教戦争」だと見立てる解説もあります。

しかし大事な視点は、そうした国家と表裏一体の教会とは別に、民族からも国家体制からも独立した教会が存在することです。ウクライナ侵攻直後に、ロシア福音同盟総主事が世界の主にある兄弟姉妹に向けて自国の侵略を謝罪した声明(＊)、旧ソ連圏の福音バプテスト教会の各連合会長が連名でプーチン大統領に出した書簡(＊＊)は、どちらも国を超えた信仰の声です。これら福音派教会は、旧ソ連時代に迫害を受けた地下教会でした。

ロシア正教は当時、ソ連政府に公認された政府の代弁者でした。宗教活動の自由と引き換えに、国策に順応する教会だったということです。今回ウクライナに軍隊を侵攻させたプーチン大統領をキリル一世が支持したことで、旧ソ連が崩壊した後も、なおロシア正教会が「政府系」の教会体制を維持していることが露呈しました。

Rev. Tsukasa Sugimura

「私達の教会の歩み」

2005年9月18日、アーバイン日本語キリスト教会は、南オレンジ郡地域の日系人とその関係する方達の救いのために、東洋宣教会北米ホーリネス教団オレンジ郡キリスト教会の伝道所として礼拝を開始しました。現在は、榊原宣行牧師の監督のもと、杉村宰牧師と啓子師をはじめ、田畑彰牧師、ジェームス・パーク牧師、佐藤裕士兄と、信徒達の協力で毎週礼拝をささげ、伝道と牧会の働きをし、月一回の家庭集を開いております。

「ミッション・ステートメント」

アーバイン教会の使命は、罪の中にある人々を救うために十字架について死んで下さり、三日後に復活されたイエス・キリストの歴史的事実を、まだイエス・キリストを知らない日本語を理解出来る人々に、主の大宣教命令(マタイ28:18-20)に従って宣べ伝え、ホーリネスという愛の信仰を土台として信者達の信仰の成長をうながし、イエス・キリストとの祈り深い生活へと導き、整えられたクリスチャンとすることにあります。